

マザーハウス

たより

**あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。
あなたが必要であり、大切です。マザーハウスはあなたの家族です。**



絵：masa さん「幸せな時間」

2023

5

月号

- | | | | |
|----|-------------|----|----------|
| 2 | 理事長挨拶 | 21 | 育児日記 |
| 4 | 特集記事 | 22 | 行事予定 |
| 8 | 塀の中のたより | 22 | ラブリー DAY |
| 16 | ささきみつおコーナー | 23 | お知らせ |
| 18 | 社会の声（学生の感想） | | |

理事長挨拶

刑務所の同級生（現在牧師）と



みなさん、ゴールデン・ウィークはどうでしたか？私は風邪をひいてしまい最悪な状況でした。それでも、長女と次女を連れて鯉のぼりを見に行くことが出来ました。娘たちは川遊びをしていました。子どもたちとの触れ合いが私にとつての癒しですが、なかなか時間が取れず、子どもたちには申し訳ないです。日曜日は子どもたちとミサには行くようにしています。

先日、ある刑務所の受刑者からお手紙を頂きました。正直、この人はなぜマザーハウスと関わっているのか理解に苦しむことがあります。それが理解できました。「謙遜」というものが欠けているのだと思います。だから今、自分がどこにいるのか、きちんと理解していないのだと思います。孤独で、関わってくれる家族がおらず、今まで自分を大切にしてもらった経験がないのだと思います。今後のことは協議となりますが、当法人では対応が難しいと感じています。

回復するためには謙遜になることが必要です。また、当

たり前のことが刑務所でもできることです。お金がないから支払うことが出来ないというのは、自分が逆の立場になったらどうしますか？ということです。自分のことばかりではなく、相手のことを考えることが出来れば再び刑務所に行くことはないと思います。それができないから再び刑務所に行くことになるのです。「マザーハウスのボランティアに対する感謝の言葉を述べているが、全く心に響かない」とある方が言っていました。本物は、相手がどういう人であろうがみんなに感謝しているし、姿を現していると思います。自分が受けたことを忘れないと感じるでしょう。

毎回、マザーハウスたよりに「移送・出所の場合はお知らせください」と告知をしているのですが、改善されません。このことを見ても分かんと思いますが、自分さえよければ良い、あなたたちが勝手に支援しているのだから面倒を見るよと、お考えなのでしょう。だから社会の人たちの見方が変わらないのだと思います。

先日、中央大学と国士舘大学、渋谷更生保護女性会でお話をさせて頂きました。更生保護女性会の会長がマザーハウスのメンバーと交流して対話することで全く違う姿に接することができ、とても嬉しいと言ってくれました。同じ人間として触れ合うことが回復につながるのだと思います。

4月28日に、刑務所内で脳卒中を患った人を受け入れることとなり、みんなで協力しながらサポートしています。仲間思いのメンバーにとっても感謝しています。お互いが助け合いながら日々生活をしている姿を見ると、希望があふれてきます。多くの人の居場所になればたらよいと思います。



この日は宇都宮地裁において情状証人として証言し、次の判決公判にも参加することになりました。また、今市警察署にも行き、無免許運転を繰り返している74歳の男性とも面談をさせてもらったのですが、その男性は孤独の中でもがいているように感じました。その後、栃木刑務所に行き、面会をしてきました。関わるからこそ、キリストを学ぶことが出来ると感じてなりません。キリストは祈りと共に実践を私に求めているとも感じます。

この間、知人の知り合いであるお母さんから「息子（中学生）が痴漢行為をして警察から取り調べを受けているが、本人はやっていないと言っている。またやるのではないかと不安で仕方ないので相談に乗って欲しい」と連絡を受けました。この中学生は母子家庭であり、父親から言葉等による虐待を受けているとのこと、傷ついていると感じます。まだご本人と会って面談していないため深くは分

からないですが、回復のためには今だと感じてなりません。

5月6日には、Inter7の講演会を聖イグナチオ教会内の岐部ホールで実施しました。多くの方にご参加頂きましてありがとうございます。私自身、「西鉄バスジャック事件」の被害者である山口さんに会うのは2回目でした。前回は龍谷大学の講演会で一緒に過ごしていただきました。山口さんのお話をまじまじと聞いていると、この人は聖母マリア様のような方であると感じました。そして、私の声も聴いてくださった。

山口さんのお話を多くの受刑者のみなさんに聴いていただきたく、関係者に許可を頂いたので、今回本誌に山口さんに関する記事を掲載させて頂くことにしました。自分の痛みと共に相手の痛みも感じ取って欲しいです。そして自分にとって償いとは何であるか考えて欲しいです。考えることが大切であると思います。みなさんからのご感想をお送り頂ければ幸いです。

※2000年5月3日に発生した「西鉄バスジャック事件」の被害者である山口さんに関する記事を次頁に掲載しています。皆さまぜひ最後までお読みください。

特集記事

牛刀をふりかざし、大人たちを支配した少年

2000年5月3日、ゴールデンウィークの最中、佐賀発福岡行き的高速バスが17歳の少年に乗っ取られ、1人が死亡、2人の負傷者を出した。薄暗いバスの中、鋭く光る刃渡り30センチの牛刀を持って歩く犯人の映像は、日本中を恐怖に陥れた「西鉄バスジャック事件」である。

家庭の中にも外にも居場所を見つけられず、犯罪によって怒りを社会にぶつける若者による事件はその後も続いている。

本件の被害者でありながら、加害少年と対峙した山口由美子さんに話を伺った。

23年前の5月3日、山口さんは友人と一緒に天神でのコンサートに行くため、高速バスに乗っていた。バスが高速道路に入ってしまった頃、一番前に座っていた少年が突然立ち上がり、牛刀を振りかざしながら、全員後方に座るよう命令した。

西鉄バスジャック事件の時、犯人の少年に「牛刀」で切りつけられた被害者が語ったあまりに「意外な想い」

NPO 法人 World Open Heart 理事長 阿部 恭子著。現代ビジネスから転載。原文ママ

その言葉に涙みはなく、山口さんは、

（なぜこんな子がこんなことを言うのだろうか……）と啞然としていた。

すると、眠っていて少年の行動に気が付かなかった乗客が突然刺され、車内に戦慄が走った。

しばらくして、運転手はトイレ休憩が必要だと少年を説得し、一部の乗客がバスを降りることを許された。トイレに行くバスを降りた乗客のひとりが、隙を見て警察に通報した。

その様子に気が付いた少年は腹を立て、

「あいつは裏切った。連帯責任です」

そう言って、いきなり山口さんを切りつけた。山口さんは倒れ込み、通路は傷口からの出血で血の海に見えたという。

その後も、隙を見て窓から飛び降りた乗客がいた。少年は次に、山口さんの友人を刺し、友人はしばらくして息を引き取った。

少年を殺人者にしたくないという思いが命をつなぐ

「この子も私の傷と同じくらい傷ついている……」

山口さんは少年の様子を見てそう感じ取っていた。そして、傷ついている子を殺人犯にしたくないという思いが湧き上がり、傷の浅かった右手で身体を支え、傷の深かった左手を心臓より高い位置にあるひじ掛けに置いた。この時、倒れたままだったならば失血死していたかもしれない。

その後、警察の交渉により、怪我人が解放されるチャンスが訪れる。ようやく助かったと思った矢先、

「じいつじぶといな、殺してやろうか」

という少年の声が聞こえた。

「もういいでしょ」

少年の側にいた女性の一言が、さらなる凶行を止めた。少年は暴走する自分を誰かに止めて欲しいと思っていたのではないかと感じた。

山口さんは無事救出され、広島市内の病院に搬送され

た。出血多量で輸血を受け、なんとか一命を取り留めた。

逃げた人々が受けた社会的制裁

事件発生から15時間が経過した頃、警察の特殊部隊がバスに突入し、少年は逮捕され、乗客全員が救出された。

少年逮捕後に過熱したのが、自力でバスから脱出した人々へのバッシングである。

「卑怯者」「死者を出したのはお前たちのせい」

と怒りの矛先は被害者であるはずの彼らに向けられ、仕事を続けられなくなり、転居を余儀なくされる事態にまで発展した。

「あのような状況に身を置いた人でなければ分らないのではないかと思います……。あの状況では、自分のことしか考えられません」

山口さんは、逃げた人々も同じ被害者だと訴える。

[次頁に続く...](#)

少年の両親による謝罪

山口さんが退院してしばらくすると、少年の両親が謝罪に訪れた。少年は中学時代、学校でからかわれたり、暴力を受けるといった壮絶ないじめを受けていた。ある生徒から筆箱を取り上げられ、

「返してほしかったらここから飛んでみる」

と踊り場から飛び降りることを強要された。運動能力の発達した子どもなら可能だが、少年は上手く着地できず、腰の骨を折る大怪我を負った。そのため高校受験も入院先での受験となってしまった。第一志望の高校はあきらめ、第二志望の高校に合格するも、学校に馴染めず、ひきこもりになっていた。

少年は、いじめへの復讐として中学校襲撃事件を計画しており、凶器の購入など計画に気が付いた両親は、精神科の病院に医療保護入院させることにした。少年は見捨てられたという思いからか、「覚えていろよ!」と親への復讐を仄めかした。少年は1日も早く退院するため従順を装い、医師たちを安心させた。そこで医師が外泊を認めた日、事件を起こしたのだった。

事件後、息子が殺人犯となったことで父親は失職し、家族は孤立した。親にとって、子どもに殺人を犯され

る以上の苦しみはない。少年は、事件によって家族への復讐を果たしたともいえる。

「どうしてちゃんと向き合ってあげなかったの?」

山口さんは、少年の両親の話を聞きながら問い詰めた。山口さんもまた、子どもの不登校に悩まされた経験があり、だからこそ、親としていじめの傷に苦しむ我が子に寄り添ってあげて欲しかったという。

少年の両親は家庭で暴れる少年に隷従しており、暴力や脅迫によって人を支配できることを少年に教えてしまったようなものだった。

少年との面会

山口さんは事件の瞬間からずっと、少年のことが頭を離れず、少年と話をすることを望んでいた。

山口さんは、医療少年院で少年と面会することが叶った。山口さんの前に現れた少年は、深々と頭を下げたという。

「これまで誰にも理解してもらえなくて辛かったね」

山口さんは、そう言いながら少年の背中をさすると、孤独だった少年の苦しさが伝わり、涙があふれてきたという。学校で酷いいじめに遭い、不登校だったわが子と、少年の姿が重なっていた。

事件で山口さんが負った傷は、少年の心に受けた傷そのものだったのかもしれない。

それでも、彼を赦したわけではなかった。赦すのはこれからであり、これからの生き方を見ていくと伝えていた。

「私のことを思っただいてくださった時、自分の罪深さと温かい思いが同時に沸き起こりました」

その後、少年から届いた手紙にはそう書かれていた。山口さんにとって彼の言葉は、心からの謝罪だと感じた。少年は山口さんを信頼し、本音を打ち明けてくれるようになっていった。面会や文通を重ねる度に、少年の成長を感じることができた。

被害者だからこそ見えた少年の傷

事件後、「キレる17歳」「少年の心の闇」といった言葉がメディアで多用され、世論は少年への罰を重くす

る方向へと流れてきた。一方で、再犯防止の観点から社会的孤立を防ぐ取り組みも重視されているが、大人が一方的に提供する場所が必ずしも子どもにとっての居場所になるとは限らない。

「話を聞いてもらうだけでいい、答えは自分で出すから」

山口さんが、我が子に何度も言われた言葉だった。大人はつい、こうしろあしろと口を出してしまうが、子どもの思いを否定せず、ただ「つらかったね」と受け止めることが重要だと話す。簡単なようで難しい。しかし、特別なことをするより、本来、子どもたちが求めていることなのかもしれない。

「事件後、多くの加害者たちはかつて被害者だったんじゃないかと考えるようになりました」

世間は少年を「凶悪犯」「モンスター」と呼んだが、人間らしい感情を蘇らせたのは、少年に最も傷つけられた被害者だった。

※【引用元】現代ビジネスオンライン2023年5月1日掲載

<https://gendai.media/articles/-/109682?imp=0>

塀の中のたより

更生とは？

〇 刑 ドクターKさん

刑期が半分を過ぎ、長期の人達の間では、10年刑期が過ぎると、その人達は「10年戦士」と密かに言われています（笑）。私もその戦士達の仲間入り（？）をしました。改めて思う事があります。

更生とは何の事を言っているのか、どのような状態で更生したと言えるのか、本音を言うと、その事について最近分からなくなってきました。

私の事件には、被害者の方がいます。被害者の方に対して申し訳ないという謝罪の気持ちを持つ事や、その気持ちを文にして謝罪文として形にしたり、被害弁償という形で謝意を示すという事だったり、二度と同じ過ちを犯さない事で、果たしてそれらを実行した事で更生したと言えるのでしょうか？

受刑者からの手紙



受刑者からマザーハウスに寄せられた手紙を紹介します。



今述べた事というのは、私達加害者の立場からすると、それはやらなければいけない「義務」であり、その当たり前の事をするだけ、考えるだけで更生したと言えるのかと、私はそういう悩みを抱えています。

その他にも、人によって様々な要因で刑を務められている方がいますが、他の人達が自身の「更生」についてどう思われているのか知りたいです。同囚に聞く事が手取り早いと思うのですが、ここはあえて私のこの投稿を読んで下さった、顔も素性も知らないマザーハウスでつながっている全国の皆さんにコラムを通して自分なりの「答え」を聞かせて下さい。

ちなみに、私なりに今一番大事にしているのは、「素直」、「正直」、「忘れない事」です。

刑務所での処遇

〇刑 Sさん

昨年、ある刑務所での受刑者に対する不適切な処遇が明らかになりましたが、私が生活している刑務所でも不適切な処遇はあり、その他の施設でも何かしらあるのではと思います。なぜなら私がそれを受けた一人だからです。

どのようなことがあったのか話しますと、もう数年前になるのですが、そのころから私は工場で一つの業者の作業を班長として任されていました。当時の工場担当は、反抗的な態度をとらず、素直に言うことを聞く人を見つけては嫌味を言ったり、いやがらせ的なことをする人でした。私がそのような人物だったので、私からすれば非常に面倒くさい嫌がらせを日常的に受けていました。

私はたまに工場内の倉庫に入ることがあり、日ごろから私が入るたびに、5〜10cmの所まで扉を閉めてくるのですが、幸い入ってすぐの所に物を置いたりなどが多かったので、扉が閉まらない様に片足を挟んでいました。ですが、ある日足の届かない少し奥の方まで入った時に扉を完全に閉められたのです。もちろん刑務所の扉ですから私は鍵を持ってないので開けられません。担当本人もやばいと思ったのか、ほんの2〜3秒で扉は開きまし

たが、一瞬であっても故意に扉が閉められたことは事実です。

懲罰覚悟で文句を言ってやろうかと思いましたが、作業時間中ですので近くに人はおらず証人もいないので、担当も認めないだろうし、勝手に暴れたで片づけられるかもしれないと思い、工場内の監視カメラも角度的に死角になり映っていないと思ったので、その日は我慢をして、次、同じことがあればと思っていましたが、その一度だけでした。私は、無知な人間ですが、さすがにこれは監禁的なことになるのではと思い、身近な存在に弁護士をしている者がいるので、相談しようかとも考えましたが、今回の事件のせいですでに多大な迷惑をかけており、これ以上迷惑をかけたくないと思い諦めました。長い刑期が残っていたので自分の立場も悪くしたくないという考えから不服申し立ても利用しませんでした。あとから考えれば不服申し立てをすればよかったと思うことも少なくありませんでした。

また、他には、ある日の体育館での運動中、私を含め4人で集まって喋っていたのですが、その中のAがBに対してはつきりした内容までは忘れてしまいました。個人個人の事に関する質問をしたのです。そうすると、こちらに寄ってきていたこの担当が「そんなこと聞くな」的な事を私だけに対して言うので、私が、質問したわけでもなく、その場にいたもの全員に言うのならまだ分かり

もなく、その場にいたもの全員に言うのならまだ分かりますが、いつもの様に私に嫌がらせみたいなことをしてくるので、私も他人の前だったこともあり、調査に立つてもいいと思い「俺が聞いたんじゃないやろ」とついにキレてしまいました。この件に関しては、これだけなら刑務所ではあることかもしれませんが、まだ続きがあるのです。

その日の作業が終わり、工場内での足洗終了後に側道内で待機していると担当がこちらの機嫌をとるかのように持っていた500円玉を渡してきて、これで許してのなことを言ってきたのです。500円玉は、渡すふりではなく数秒間私の手の中にありました。これは、不適切ではないでしょうか。その瞬間には思いつきませんでした。が、時間が経って考えると500円玉を飲み込んで問題になればよかったと思ったものです。私はその後も今に至るまで同じ工場に就業しており、今はこのような処遇は受けていないのですが、以上の事を知っておいて頂きたいと思い書かせて頂きました。ここまで読んでくださり、ありがとうございました。

刑務所というところは、受刑者が罰を償い更生するための場所だと思います。当たり前ですが、受刑者も一人の人間ですので職員という立場を利用して不適切な処遇をされていては更生などできる筈がないと思います。

人と向き合う

〇刑 Wさん

お送りいただいた冊子の中に、「人と向きあうことで争う事もあるけれど、向きあっている思いを分かち合うからこそ存在を肯定できる」と言う言葉がありました。

今まで私は母の死をきっかけに自分と周りの人を信じられなくなり、会話も交流も避け続け、法事にも出ずにバイトとネットカフェにこもって生活していました。理由は、うつ病を患っていた母の自殺を不注意で防ぐことが出来なかった自分のふがいなさや怒りを覚え、親族からは情けない奴と冷たい目線を感じ、最初は申し訳ない気持ちでいっぱいになりましたが、母の世話を私一人に押し付け何もしてくれなかったことに怒りがわき、また、亡くなった母にも、知的障害を持った兄や私の事もどうでもよくなり自分が楽になることを優先して自殺したのじゃないかと思うようになり、人間不信となっていたからです。

今は過度な被害妄想だったと後悔していますが、このような妄想を言い訳に母を救えなかった罪悪感と親族に対し向きあうことから逃げていたんだと気づきました。責任や人と向きあうことから逃げて不真面目で怠惰に生

きていた結果、父を殺めてしまい、兄は唯一の肉親と家を失い、親族にも悲痛な目に合わせてしまいました。

一生かかっても許されることではありませんが、罪滅ぼしとして受刑生活を真面目に過ごし、社会復帰に全力に生き、そして人の気持ちを大切に思いやり、死んだ母や父、残された兄や親族に対し常に感謝の気持ちを忘れずに二度と犯罪に手を染めないまっとうな人格者になれるよう頑張りますので、マザーハウスの皆様には私が悩んだ時や間違いのある考えを抱いたときに厳しく正して頂けると助かります。マザーハウスの皆様のお気持ちや、今私を支えてくれる人たちの信頼を裏切らないように立派に更生できるように精進してまいりますので、これからよろしく願います。

フランススコ事業部の存在意義

丁刑 Kさん

マザーハウスのフランススコ事業部の存在について、みなさんはどの様に心の存在価値として受け入れているでしょうか。私は、なくてはならない



受刑者からの手紙



受刑者からマザーハウスに寄せられた手紙 - つづき -

いとても大切な存在として受け止めています。

若くして母を亡くし、今回の服役中に父を亡くし、たった一人の妹とも数年前から疎遠になり、友人・知人もいなく、誰も差し入れをしてくれる存在がいない現状です。そうした中で自分の欲望に負け、自分の好きな書籍を代行購入して頂ける、フランススコ事業部の存在そのものに、私はまず感謝すべきだと率直に思います。

私たちは社会から隔離されることで、社会能力を喪失していきます。能力の喪失は少なからず常識性に影響を及ぼし、利己的常識へと変化をもたらします。

「常識」の意味を辞典で調べてみました。常識とは「その社会が共通に持つ知識または考え方」となっています。つまり、主観的な考えではなく誰も一人一人が共通する認識の解釈を持てる事です。しかしながら、刑事施設という狭い空間において様々な生活状況を取り巻く現象原理のもとに、常識の意識は麻痺し希薄になります。いわゆる拘禁病とする、社会の常識と施設の常識が交錯することにより、自己防衛意識が働き自己主張が強くなり、正常化の常識を軽視するようになります。

私たちに求められるのは、社会に順応する能力と常識性を回復させることです。常識の意識はフランススコ事業部に依頼することで、深く関係し影響を与えます。私たちが依頼する上で、原則意識を持たなければいけないのは、依頼代行することによりフランススコ事業部は依頼者である私たちに對して、法律下のもと多様な責務が発生します。まずそのことを了見意識として根付かせることが必要だと思っています。

フランススコ事業部は、その責務の稼働として運用制度のシステムを構築し運営しているわけですから、そうした制度の趣旨の運営を理解する常識意識が、とても重要で大切なことだと私は考えています。

以前のマザーハウスたよりの理事長挨拶文で、フランススコ事業部のことで散見されたのは、依頼内容と送料に関するクレームでした。そうした依頼常識や、送料問題（アマゾン直通）の対応も、私たち受刑者の一人一人の平等な見地から、その責務を完遂させるために新しい運用システムの趣旨として取り入れています。

私ごとになりますが、少し前にこの様なことが



受刑者からの手紙



受刑者からマザーハウスに寄せられた手紙を紹介します。

ありました。運転免許の更新に住民票を要したのですが、その住民票を取り寄せるのに、交付手数料に300円の為替を要し、当所では為替を購入した所、為替と一緒に手数料250円の領収書を交付されました。300円の購入に対し250円の手数料が発生するのです。

みなさんはどう思いますか。これが喪失している常識の一端なのです。フランススコ事業部は、私たちの為にその依頼に尽力してくれています。私たちの為に支援をしてくれていることに私たちは、丁寧に理解し感謝しながら大切にしていくなきゃいけないのではいでしょうか。

マザーハウスは、私たちに更生への未来に常に希望を届けてくれています。しかしその希望を叶えるのは私たち自身なのです。みなさんと共にマザーハウスの支援の意味を一緒に考え、そしてフランススコ事業部の在り方の意義に感謝して、同事業部の運用を円滑にしていきましょう。そして、寄り添って頂いている私たちの支援にもう一度自分自身を見つめ直し、その気付きから自分の少しずつの成長を実感しながら新しい自分に出会っていきましょう。

その先には笑顔で未来と一緒に、伴に歩んでくれる人たちがきつ々しいと思います・・・

自分の心の回復と成長を信じて・・・

(注) マザーハウスのフランススコ事業部では、受刑者の方の学習環境や読書環境の支援のため、書籍の検索及び購入（主に中古本の購入）代行をしています。

自分の弱い心との戦い

G 刑 Tさん

マザーハウス理事長の五十嵐さんと初めて会った日、正直僕の心は殺伐としていて毎日がどうでも良かったし、腹が立つたら暴れて終わりの日々でした。でも、2回目の閉居30日が終わった時、その間に届いていた手紙やたよりが手元に入って、「俺の為に動いてくれている人がいる」と思いました。

それまでの懲罰は勝手に寝たりして怒られてばかりだったし、反省の気持ちも1ミリもなく「早く終わらんかな〜」ということしか考えてなかったけど、追加調査

で3回目の閉居35日の時は毎日我慢することを頑張りました。3回目が終わった時、出所するまで1回も懲罰にならないと決めました。8月に最後の懲罰を終えてからは1度も反則を取られていません。腹が立つときもあるし理不尽だと思って憤りを感じる時もあるけど、その度に我慢して自分の弱い心と戦っています。

それに今は、毎月1回Sさんが面会に来てくれるのが僕の心の支えで、手紙のやり取りができるのが嬉しくて、懲罰になればそれが全て奪われると思うと、多少のことは我慢できるようになりました。マザーハウスと出会っていないければ面会もないし、独居での毎日で多分、今も暴れていたと思います。だから出会えて本当に良かったです。

ここいると本当に理不尽な事ばかりで、納得のいかにことの方が多くけど、それでもマザーハウスたよりを読んでいると他の受刑者の人も大なり小なり耐えて過ごしているんだと思うと、僕もみんなに負けないよう頑張ろうと思えます。

それと今、僕は高卒認定の勉強を頑張っています。来年受験予定です。合格できるように今は、週2〜3日の頻度で英語の勉強をしています。高卒認定に合格したら次は宅建の勉強を始めます。今までやりたいこともなく、ただお金が欲しいだけで半グレとして行動して、人から

ただお金が欲しいだけで半グレとして行動して、人から奪ったお金で生活していたけど、最近将来のことを考えた時、人生の中で一番楽しいはずの10代・20代を塀の中で過ごし、これから先もこんな人生を歩むのは嫌だと思いました

人生をやり直す

拘置所 Sさん

私は、出所してから約1年足らずで道交法、過失運転致傷、覚せい剤取締法の3つの罪を起こして現在は拘置所で日々生活しています。もう少しで刑も決まり、早ければ2月ころまでには下獄し受刑生活もスタートします。3年ほどの懲役ですが志願者ではないので、この3年という年月は長く感じますが、私自身、今回の逮捕は人生をやり直す良いきっかけだったと思うようにしています。

今、薬物は社会で依存症として認識されてきていますが、覚せい剤などの薬物を使用していた者として、すべてが依存症が原因ではないので、出所後は私自身ちゃんと薬物から立ち直ることができ行動をしていくことが大切だと思っています。その為にも、身体だけではなく

気持ちもクリーンにして今度こそ社会で普通の暮らしをしていければと思います。何度もうこうした生活を繰り返して仲間だけでなく家族にも見放されてしまいました。それは私自身がまいた種の結果なので仕方ないのですが、もうこういう思いをし続けるのも悲しいし、ちゃんとやってる姿を見てもらえれば、また今までのように付き合ってもらえると思うので…

取材を受けて

K刑 Mさん

ある報道番組で私が受けた取材の内容を放送していたようだ、複数の同囚が教えてくれました。もし私がその番組を見ていたら、おそらく衝撃を受けたと思うと、同囚から言われました。私の意図とは全然違う内容だったそうで、非常に悪意を感じたとのことでした。私は、取材の時の質問からそのような放送になることを予想しておりましたから、むしろ見たかったのですが、他の番組を最後まで観たためもあった気づかなかったのです。同囚も番組終了前のまとめの部分しか見ていないようなので、私の取材の様子までは映像で確認していないとの事でした。

いずれにしましても、これを見たら被害者遺族がどのように感じるかを想像すると、取材を受けるべきではなかったかと反省しました。私は、これも償いの一環で、私の今の心境を知ってもらって、私のような事件が起こらないために、また非行に走る若者たちが考え直して生き方を正してもらえたらと考えて取材の質問に答えたのですが、残念な結果になってしまいました。

私は、事件当時の被害者に対する言動の一つ一つについて振り返りますと、決して赦されるべきではないと強く感じます。ですから、聖書の神を信じて罪の赦しを求めることも躊躇いたします。私のような者が救われて、信じてないから救われないということは耐えがたく感じます。同時にそのような神に激しい憤りを覚えます。科学を学べば学ばほど神の存在が意識されます。しかし、ブツダの教えから考えますと、万物創造、つまり何かを欲し何かを求める心は「迷い」と見放さざるを得ません。

すみません。私は聖書の神を信じて正しく生きている人を否定するつもりはありません。むしろ尊敬しています。無信仰者でも、キリストのように愛に生きる人は、どんな人でも尊敬します。



受刑者からの手紙



受刑者からマザーハウスに寄せられた手紙 - つづき -

ただ私は、前述の2つの理由からクリスチャンにはなれないし、ならないと申し上げただけです。

これまで、はつきりお伝え出来ずに来ましたが、これが本心です。ですから、マザーハウス会員にふさわしくないのではないかと隔離生活が続く中、考えていました。そして今年度限りで脱退して献金だけさせていただくか、それなら無宗教の被害者とその遺族を支援する団体の方が良いか、脱会するなら文通ボランティアの方にもきちんと伝えないといけないが、いつ伝えるかなど、いろいろな考えが去来していました。しかし、まだ何も結論は出ておりません。熟考を重ねたうえで結論を出します。

私は、拘置所にいたときは死刑も覚悟していました。そうしたら不思議なもので、この世に生きた証を残したいと思い、考えた末に「死ぬまでに完璧に読み書きができるようになりたい」でした。小5の時の国語の時間にこれができずに大恥をかけたことが影響したのだと思います。それ以前から、全教科ダメでしたが、この日に受けた屈辱は非常に大きいものでした。

以上

ちぢみお「ナー」

「加害者意識と被害者意識の食い違い」

1 加害者と被害者

「佐々木さん、あの頃よくいじめてくれたわねー」

還暦を迎えこれが最後の同級会だということで、小学校の同じクラスの食事に仲間が10数人集まった時、みんなの前である女性からこう言われて返事に困った。私はその女性からいじわるされた記憶はあるが、彼女をいじめた記憶はまったくなかった。私からいじめられたという記憶が彼女の心から数十年も消えていないことを申し訳なく思い、二次会でお詫びをした。少しでも心の傷が癒されたことを願っている。

また、ある時、10年ほど連絡がなかった親友に電話をした。「いやあ、ずいぶん久しぶりだねえ、元氣か」という返事を期待していたが、なぜか彼は緊張してぎこちなかった。要件の話が終わり、最後にこう言われた。

「佐々木君、あの時、君を傷つける発言をしてしま

い本当に申し訳なかった。気まずい思いから君に連絡できなくなってしまったんだ、どうか赦してくれ」
私は彼から傷つけられた記憶はなかったもので、それを知った彼はホッとしたようだった。

このように加害者と被害者の意識が食い違うことが多い。事実、紛争の原因はお互いの言動の相手に与えた影響の認識や記憶の相違によることがほとんどである。夫婦のDV、男女のセクハラ、上司部下のパワハラ等の訴訟では必ずと言ってよいほど、当事者間の加害・被害の意識に大きなずれがある。加害者は普通の対応をしたと思っているが、被害者はひどく傷つけられたのである。

最近でも、大手の回転ずし「スシロー」での高校生のいたずら動画がネットで世界中に拡散され、スシローが莫大な損害を受け、大きな社会問題にまで発展した。もちろん彼は自分のいたずらがそんな大問題に発展するとは思っていない。その結果、彼は社会から非難を浴び、高校を中退しただけでなく、被害者のスシローから民事・刑事の法的責任を厳しく追及されることになる。

2 心の傷の癒し

加害者の謝罪や損害賠償で被害者の被害はある程度償われるかもしれない。だが、被害を受けた人の心の傷が癒されるとは限らない。心の浅い部分の傷は、心の持ち方を変えたり、薬物の服用や精神科医のカウンセリング等の治療により癒されるかもしれない。年月が経てば自然に癒されることもある。でも、心の深い部分の傷は一生消えないかもしれない。

聖書の最大のテーマは、「罪と罰と赦し」である。父なる神は人間の身代わりに御子イエスを十字架につけて罰することにより、人間の神に対する罪を赦してください。

キリストは無実なのに死刑を宣告され、唾を吐きかけられ、顔を殴られ、頭にいばらの冠をかぶせられ、着ていた衣を脱がせて分けられ、体中を鞭で打たれて血を流し、十字架を担いでゴルゴダの丘への道を歩まれ、両手両足に釘を打ち込まれ、両足を折られて十字架に長時間晒され、最後は槍で脇腹を刺されて殺された。これほどの不条理と苦痛があるだろうか。私たちの罪はまさに神を殺すほどの大きな罪なのである。

神が私たちの甚大な罪を赦してくださいました。だから、私たちも自分を傷つけた加害者を赦すべきではないだろうか。心の傷は人を赦さないことが原因であると思う。加害者を心から赦せば、心の深い傷も癒されるはずである。

そのとき、イエスはこう言われた。

「父よ。彼らをお赦しください。」

彼らは、何をしているのか自分で分らないのです」

(ルカ23:33-34)

ささき みつお(弁護士)



絵：エイルさん

社会の声

■自分が幸せになって良いのかと思っていたときに被害者の方に「罪は忘れないで、でも幸せになってください」と言われたというお話を衝撃を受けました。確かに私も自分が幸せなときは周りに人にもその幸せを分けてあげたいと思うこともあるけど、自分が落ち込んでいたり不幸だと感じたときは周りのことを考える余裕などないなと思いました。周りの人を大切にして幸せにするためには自分の幸せも大事であるということに今回の講義を通して気づくことができました。

■行いによって愛すという言葉や、今までの悪行への償いの話を聞いていて理屈はわかりました。しかし、私の大切な人たちが理不尽に傷つけられたとき、私は相手が当時幸せでなかったからだと思ったり、今償いのために支援活動をしていると知ったとしても、永遠に許すことはできないとも思いました。

学生の感想

理事長の五十嵐が大学にて講演させて頂いた際に
学生の皆さんから寄せられた感想のご紹介です。

■五十嵐さんの話を聞いて、私には想像できないような生活を送っていたのだと感じたのが正直な感想です。私には起こり得ない、関係ないと初めは思っていました。しかし、最後まで話を聞いて自分の考え方が大きく変わった気がします。誰にでも加害性があり、同じ人間であることに変わりはないし、勝手に線を引いて違う人間だと決めつけてはいけないなと思いました。刑務所に入っていた人、改心しようとしている人を社会は弾こうとするという言葉がとても印象に残りました。改心しようと、本人が変わろうと強く思うことと、それを認める、サポートできる社会がなければ更生なんてできないという話を聞き、本当にそうだなと思いました。人は、1人では生きていけないし、それは私たちも受刑者も同じこと、だからこそ認め合って支え合って、気持ちを理解しあうことが大事なのだと感じました。今回の話を聞いて私の考え方が変わったように、みんな同じ人間だ、愛を与えられ持つべき人なんだという考え方をできる人が社会にもっと増えて、社会全体が変わっていったら良いなと思いました。

■ 幼い頃に満たされていなかった愛を聖書が満たしてくれ、被害者との向き合いにも繋がったとおっしゃっていましたが、やはり愛に満たされ孤独が解消され、人との繋がりが生まれた時に人は進むのだと思いました。

■ 五十嵐さんがお話されていた中で印象に残った言葉が3つあります。それは「寂しかった。家族から愛され、愛したかった。」「社会の人はもつと刑務所というものを知るべきである」「加害者一人一人に被害者の声を伝えたい」という言葉です。私は特に1つ目2つ目の言葉を聞き、非行や犯罪に手を出す人を一方的に責めてはいけないし、多くの人がしてしまいがちな元受刑者に対して距離を取るようなことは絶対にしてはいけないと思いました。これは加害者が行ったことを容認しているではありません。しかし、犯罪に手を出す人を生み出してしまっているのは我々人間であり、人間が作り出した環境に要因があると思います。だからこそ、刑務所を出所した人に対して距離を取るのではなく、その人たちが社会復帰しやすいように、寄り添った支援、そして愛が何か分かるような支援をすることが重要であると思いました。また最後の言葉については、被害者の声というものが被害者そのものも苦しみを

理解でき、被害者の思いや気持ちが無駄にしないようにと、加害者は更生し、社会復帰していくことができるきっかけになるのだらうと思いました。そして、もし元受刑者が社会復帰できた時には、そこで支援をすぐに止めるのではなく、再度犯罪に手を出さないようにその人たちが過ごしやすく、孤独を感じないような環境を作り続けていく必要があると思いました。

■ 今回の講義で刑務所での生活は、本当に受刑者にとつて有意義なものなのかという疑問を改めて抱きました。反省と更生の意味をもって刑務所に入られるのでしようが、結局、何か罪を犯した人は生きにくい理由があつて法を犯し、受刑しているのであつて、そういった根本的な問題が解決されないとやはりいくら本を読んだり規則正しい生活をしてその時は改心したとしても、人の本質は変わらないし、環境も元に戻るとあまり変わらないと思うので、行いも元に戻ってしまい、また法を犯してしまう可能性が高いと思いました。

次頁に続く・・・

■「加害者一人一人に被害者の声を伝えていきたい」という、五十嵐さんのこれからの活動に興味を持ちました。殺人のような罪が重くなるほど、被害者（遺族）は加害者に対して怒りや恨みの感情が強くなるはずですが、また、犯罪は一人で完結するものではなく、必ず被害者がいます。被害者の気持ちを丁寧に伝えることで、加害者が改めて自分の罪と向き合い、考えることができれば良いと思いました。

■五十嵐さんが最後におっしゃっていた、「自分が不幸だと周りの人の事を考えられない、他人の事を考えられないから、加害者になってしまふ、だから、幸せにならないといけない」という言葉が、特に印象に残りました。確かに、自分の心が荒れているときは、人に優しくできないことが多くあると感じますし、自暴自棄になりそうになります。その延長線上に犯罪があるのだと知り、心が幸せであると感じられる人が増えることで、加害者となる人も減るのだと思いました。

学生の感想

理事長の五十嵐が大学にて講演させて頂いた際に
学生の皆さんから寄せられた感想のご紹介 - つづき

■五十嵐さんのお話を聞いて私の父の話と重なる部分を感じました。私の父は今福祉の専門学校に仕事をしながら通っており、実習の時間で救護施設に行っています。救護施設には過去に犯罪を犯して社会復帰できなくなってしまう、家もお金も家族も失ってしまった人や借金を負ってしまった人などが大勢います。そういった人たちは新しいことを始めることに対して極端に拒絶反応を示すそうで、社会復帰を促して実行させるまでが一番難しいそうです。その話と五十嵐さんの話がリンクして私も刑罰のあり方、社会復帰について他人事ではなく考えなければいけないと思いました。

■印象に残ったのは、「悪に強い人は善にも強く、一度決めれば実践する力がある」という言葉です。これまでの形だけの反省だけでなく、自分のしてきた過ちを振り返り、心から悔い改めることに意味があったのだとわかりました。

（おわり）

五十嵐亜利沙（妻）による

育児日記

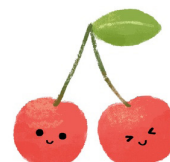


理事長妻ブログ

長男Aは春休み明けに、行き渋りがあって数日欠席しましたが、なんとか今は通学しています。カウンセラーの方に相談して、先生と一緒に様子をみてもらっています。私も学校での様子を見に行きましたが、友達と仲良く遊んでいて安心しました。

長女Kは、給食の時に吐き気がしてどうしても食べたくないというので、毎日給食の時間前にお迎えに行って早退しています。カウンセラーの方と面談したところ、今まで少人数で静かな場所（幼稚園）でお弁当を食べていたのが、急に30人になったので、音や緊張などのストレスがあるのではないかとアドバイスをいただき、今度カウンセラーの方と二人で給食を食べてみるとのことでした。

次女Rは、駐車場で転んで頭を打って五回ぐらい嘔吐してぐったりしていたので病院に行って検査を受けましたが、何もなかったので安堵しました。



4月は色々なことがあって精神的に疲れましたが、三女の何を言っているかわからない言葉や純粋な愛に癒されています。

行事予定

- 5月16日 神戸学院大学にて講義
 17日 神戸学院大学にて講義
 18日 大阪大司教区にて酒井司教との面談
 19日 大阪公立大学にて講義
 20日 野田詠氏牧師との面談
 27日 立川キリスト教会にて講演
 30日 前橋刑務所に引受人として出迎え
 Inter 7ミーティング
 31日 APS 研究会・東京ミーティング

 6月2日 東京地方裁判所刑事部にて情状証人
 6日 APS 研究会京都
 13日 通信簿研究会



五十嵐亜利沙（妻）による ラブリーDAY

五十嵐家にはたまに奇跡がおこります。それは、夫が子供たちと一緒に公園に行くことです。先日家族とスタッフさんで一緒に公園に行ってバトミントンなどをしました。その後、亡き父が所有している山を見に行きました。久しぶりに家族全員で外出したのですが、子供のトイレ事情など…色んなハプニングが起きて、やっぱり大変でした。



受刑者の皆さんへお知らせ

○ 移送・出所される方は必ずご一報下さい。MLP（文通）に参加している方は文通相手へのお手紙のみ出して頂ければ大丈夫です（差出人欄の住所で確認できるため）。

○ お問い合わせが多い内容（例：文通相手の追加を希望したのにまだ決まっていない等）は、返信にかえてお知らせ欄で回答させて頂くことがあります。毎月ご確認頂くようお願い致します。

○ MLP ペア決め現状：文通相手のいない受刑者を優先しておりますが、4か月以上お返事が届いていない受刑者の方は文通相手の追加を承りますので、「文通担当」宛にお手紙お出し下さい（お時間かかる場合があります）。

○ 冊子 NEXT は寄贈終了、サインズは休刊に伴い、たよりへの同封が終了しました。

○ フランシスコ事業部は、会費を全額納付された方のみのご利用となります。フランシスコ事業部を利用しない方は、会費の分納が可能です。なお、マザーハウスに送られた切手やお金は返還できません。あらかじめ資料をよく読み、計画的に送られるよう何卒お願い致します。

○ 会費やフランシスコの費用を切手で納める場合（84 円以上の切手のみ使用可）は、1 枚につき現金交換手数料 10 円がかかります。※郵便局の価格改訂に伴い、4 月から手数料が 1 枚 5 円から 10 円に変更になりました。

（例）100 円切手 × 5 枚の場合：
500 円－手数料 10 円 × 5 枚分 ＝
受領額 450 円

○ 下記に当てはまる場合は、事務局までお知らせ頂きたく、宜しくお願い致します。

- ・ 突然たよりが送られなくなった。
- ・ 刑期（出所日）が変更になった。
- ・ 入会申込書もしくは会費を送ってから 2 ヶ月が経過してもマザーハウスから何も届かない。
- ・ 聖書（寄贈された中古のものです）の送付を希望する（送料 800 円分が必要です）。

○ たよりでは、投稿文以外の普段のお手紙から抜粋して掲載することがあります（受刑者の皆さんは、入会申込書に同意欄があります）ので、「掲載してほしくない」というお手紙・絵画につきましては、都度「掲載不可」と明記して頂きたく、宜しくお願い致します。

編集後記 by 編集局

今月号は、中谷先生による健康相談コーナーはお休みです。また次号での掲載を楽しみにしててください。暖かく過ごしやすい季節になりましたが、皆さま今月も体調にはお気をつけてお過ごしください。



マリアコーヒー（ルワンダ・コーヒー）



製造から販売まで、元受刑者が携わっております。※4月1日より価格を改訂させていただきました。

コーヒー（粉）200g …1404 円（税込）

コーヒー（豆）200g …1404 円（税込）

カフェドリップ 10g(1 杯分) …162 円（税込）

継続して購入・販売してくださっている皆様（順不同）

カトリック茅ヶ崎教会／カトリック北仙台教会／カトリック所沢教会／カトリック浜松教会／カトリック東山教会／カトリック布池教会／カトリック菊名教会／カトリック中和田教会／カトリック新子安教会／カトリック碑文谷教会／カトリック桃山教会（平和環境部）／カトリック東仙台教会／カトリック春日部教会／カトリック足利教会／カトリック神田教会／カトリック太田教会／カトリック大分教会／カトリック西千葉教会／カトリック下井草教会／カトリック新潟教会／カトリック多治見教会／カトリック芦屋教会／カトリック鷺ノ宮教会／カトリック松戸教会／ドン・ボスコ社／クリスト・ロア宣教修道女会／日本カトリック神学院／聖母訪問会

ルワンダの祈り



ルワンダでは、1994 年、フツ族によるツチ族の大虐殺がありました。史上稀に見る残虐な内戦によって、ルワン

ダの人々は心身ともに非常に深い傷を負います。しかし内戦終了後、恨みや憎しみから、復讐が復讐を呼ぶ状況に陥りかねない中、ツチ族の人々は、復讐ではなく、和解と共生を選択しました。マリア・コーヒーは、この和解と共生の地から届けられた生豆を使用しております。

マリアの紅茶



オーガニック
純スリランカ産セイロンティー

50g（2g 入り 25 袋）… 1080 円（税込）

マリアコーヒー＆マリアの紅茶のご注文はウェブサイト・メール・FAXにて承っております。

FAX：03-6659-5270



ご注文・ご支援詳細

ラウレンシオ（便利屋業）

元受刑者の就労支援の一環として、不用品処理、遺品整理、掃除などをさせていただきます。お見積りは無料です。

*2020 年 12 月より、株式会社ルツに移行しました。

TEL：03-6659-2110

FAX：03-6659-2180

メール：info@ruth-llc.co.jp

古本募金（きしゃぼん）

書籍やDVDを下記にご寄付頂くと、マザーハウスに還元されます。

送り先：

〒358-0053 埼玉県入間市仏子 916

マザーハウス きしゃぼん係

TEL：0120-29-7000

* マザーハウス事務所への送付はご遠慮ください。

獄中 POST シリーズ

引き継ぎ作業中のため、一時的に活動を中止しております。再開次第お知らせ致します。

ご支援

正会員（一口5000 円／年） 賛助会員（一口3000 円）
社会復帰支援（ご寄付）を随時募集しております。

振込口座名：トクヒ）マザーハウス

郵便振替口：00170-0-586722

みずほ銀行：新宿支店 普通口座 2376980

*info@motherhouse-jp.org 宛に内訳をご送付願います。

洋服等の物資の送付先：

〒130-0024 東京都墨田区菊川 1-16-18-1F

マザーハウス TEL：03-6659-2110

随時ボランティアの方を募集しております。

TEL：03-6659-5260

メール：info@motherhouse-jp.org

マザーハウスたより 2023 年 5 月号

発行日：2023 年 5 月 15 日 発行責任者：五十嵐 弘志

〒130-0024 墨田区菊川 1-16-18-3F NPO 法人マザーハウス